

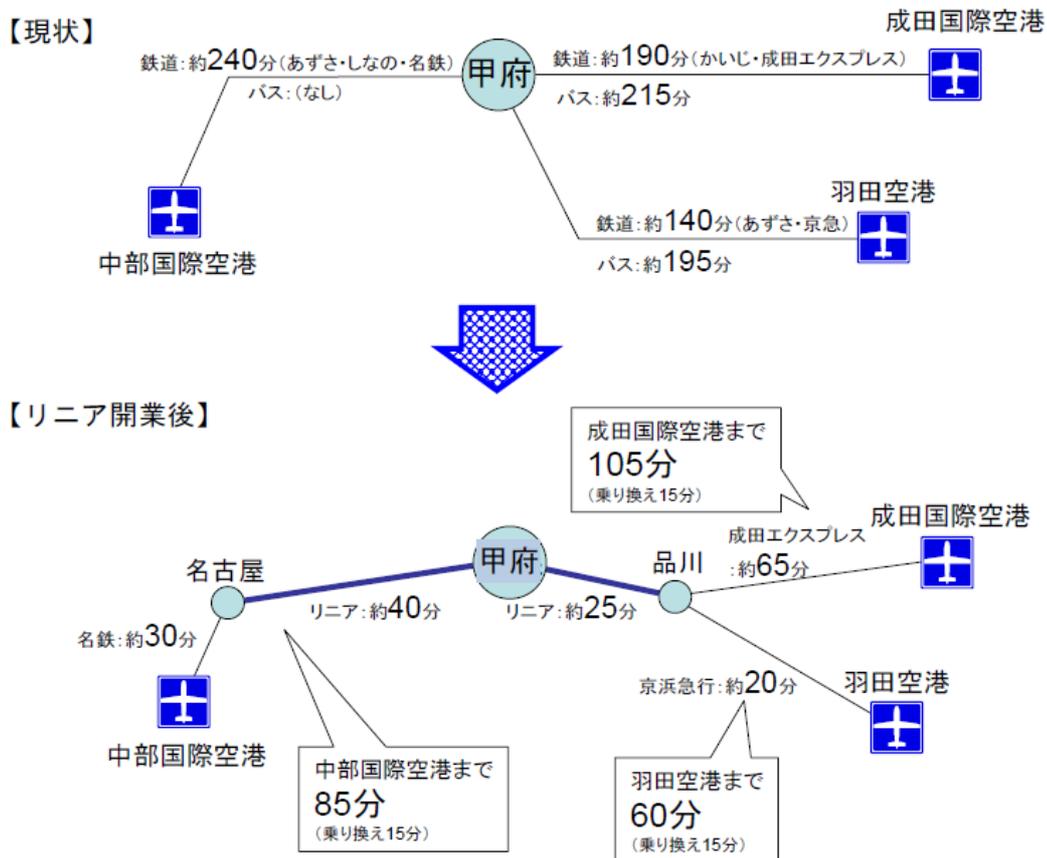
第3章 リニア中央新幹線開業がもたらす効果と影響

ここでは、リニア開業がもたらす効果と影響を整理し、それらを踏まえたなかで、各分野において期待されることや変わる暮らしについてまとめます。

3-1 リニア中央新幹線開業がもたらす効果

1. アクセス時間の短縮

リニアが開業すると、本県と首都圏のアクセス時間が約65分短縮し約25分で結ばれ、中京圏へのアクセス時間は約150分短縮し、約40分で結ばれることとなります。また、国際空港へのアクセス時間についても、現状、成田国際空港まで約190分、中部国際空港まで約240分、羽田空港まで約140分要するところが、乗り継ぎ時間を含めても成田国際空港まで約105分、中部国際空港まで約85分、羽田空港まで約60分で結ばれるなど、飛躍的にアクセス環境が向上されます。



出典：山梨県リニア影響基礎調査報告書

2. リニア山梨県駅に隣接している効果

リニア山梨県駅は、甲府市大津町に設置されます。

甲府市大津町は、鎌田川を隔て本市の高橋地区に隣接していることから、リニア山梨県駅周辺の開発などにより本市においても開発需要が高まることが予想されます。

3. 観光客等の来訪者の増加

山梨県リニア活用基本構想の試算によると、リニア山梨県駅の利用者数（乗降客数）は約12,300人/日と予測され、目的別にみると観光目的が約70%（約8,600人）と最も多く、次いでビジネス目的が約29%（約3,600人）、通勤・通学目的が約1%（約100人）となっています。

また、利用者をゾーン別にみると、富士・東部ゾーンが最も多く3,300人/日、次いで峡北・峡中ゾーンが2,400人/日、甲府駅周辺ゾーンが2,400人/日、峡東ゾーンが1,700人/日、新駅周辺ゾーンが1,400人/日、峡南ゾーンが1,100人/日の順となっています。

このことから、本市においても来訪者が増加するものと予想されます。

4. 新たな産業などが立地する可能性

リニア開業に伴い、山梨県内に立地する事業所数は、山梨県リニア活用基本構想の試算によると約2,600社と予測され、首都圏より安価な地価や家賃等を求め本市に進出して来る事業所が増える可能性があります。

また、本市には、山梨県食品工業団地、山梨県流通センター、山梨ビジネスパーク、国母工業団地などがあることや、リニア山梨県駅付近に隣接される中央自動車道（仮称）甲府中央スマートICの整備により交通アクセスの利便性が向上することにより、物流の効率化が図られるなどからも新たな企業が立地する可能性があります。

さらには、山梨大学医学部附属病院を軸とした医療・健康・福祉などの分野の起業にも期待ができます。

5. 居住人口（移住・定住）の増加

リニア開業に伴い、山梨県内に居住する人の数は、山梨県リニア活用基本構想の試算によると約14,600人と推測されています。

本市は、リニア山梨県駅に近接していることから、リニア山梨県駅近郊には首都圏へのリニア通勤やリニア通学を視野に入れた世帯の居住が予測されます。

また、豊かな自然環境の中で定年後は生活をしたいという人たちの移住も予測でき、住みよさランキングにおいても上位に位置づけられている本市への移住者の増加が大いに期待されます。

3-2 リニア中央新幹線開業がもたらす影響

1. ストロー現象への懸念

リニア開業により、交通アクセスが格段に向上し、支店、営業所の撤退などによる企業の流出、県外への通勤・通学の増加による昼間人口の減少、大都市圏への買い物客の流出などのストロー現象が懸念されます。

既存新幹線の事例では、新幹線開業による経済波及効果が、ストロー現象による影響を大きく上回るという試算結果も出ており、リニア開業によるプラス効果を伸ばし、ストロー現象によるマイナスの効果を最小限にとどめておくための取り組みが必要となってきます。

2. 騒音・振動・磁界・日照・水資源等の環境面への懸念

リニア車両の走行に伴う騒音や振動については、在来型新幹線車両と同様に周辺への影響は小さくなく、防音防炎フードや防音壁などの対策措置も想定されています。

また、超電導磁石等による磁界の影響については、基準と照らして問題はないとされています。

地上区間の高架構造物などについては、日照面や環境面などでの影響も想定されることから、今後、市民の相談窓口を設け、建設工事に伴う事項も含めてJR東海からの情報収集や県など関係機関と協議・調整を行っていく必要があります。

3. 建設工事に伴う懸念

建設工事に伴い発生する建設発生土については、保守基地など事業地内での再利用や市の公共事業等への有効利用が想定されます。

また、工事期間中は、建設関係車両が増加することから、生活道路や通学路等での安全確保や混雑防止の観点から、関係機関と協議・調整を行っていく必要があります。

4. 開発等に伴う排水への懸念

リニア山梨県駅周辺の施設整備やリニア山梨県駅近郊に建設されるリニアの保守基地などにより、下流地域への雨水排水等の流入が懸念されています。

流川、鎌田川、渋川、神明川などの河川改修や浚渫、地域における内水の影響を考慮した排水対策について、県や関係機関と協議・調整を行っていく必要があります。

5. 乱開発への懸念

甲府都市計画区域においては、区域区分により土地利用に対し用途地域等が指定され計画的なまちづくりが進められている一方、笛吹川都市計画区域では、市街化区域と市街化調整区域の区分や用途地域などの指定はなく、無秩序な土地利用が進められる懸念があります。

開発の需要については、土地利用の状況を踏まえて、適切な土地利用となるよう県と協議・調整を行っていく必要があります。

3-3 リニア中央新幹線開業への期待

1. 観光に関する期待

リニア開業後は、移動時間が短縮され、滞在時間が長くなり、全国各地から観光客が容易に山梨県を訪れることができるようになります。

本市には目立った観光地がないものの、本県全体を見ると富士山や清里など知名度の高い観光地も多く、リニアが開業するとリニア山梨県駅を拠点とし、自然等とのふれあいを目的とした体験型・学習型観光を求めて、観光客が多く訪れる可能性があります。

本市は、リニア山梨県駅に隣接していることから地域資源のPRや、各種イベントなどを開催することで、「中央市」を知ってもらう機会が生まれます。

また、地域資源を発掘する良い機会でもあり、発想と創造で来訪者を呼び込む期待が持てます。

2. 移住・定住に関する期待

リニア開業により、首都圏や中京圏とのアクセス環境が大幅に向上することで、転入者の増加や若年層の定住が進むことが期待できます。

大都市圏から地方圏に生活の場を移す「移住・定住」や大都市圏または地方圏のいずれかに生活の軸を置き、ライフスタイルに応じて相互を行き来する「二地域居住」といった行動は今後ますます活発化していくものと予想され、本市がこれらの人々に魅力的な施策を展開することにより、人口増加に期待ができます。

3. 地域コミュニティに関する期待

移住者や二地域居住者が増加し、地域の新たな担い手の確保が期待できるとともに、多様な価値観を持つ人材が入ることで、地域の活動やまちづくりに活力が生まれます。

また、観光などでの来訪者の増加やメディア等の報道で取り上げられる機会が拡大するなど、他地域から注目されることで自らの地域の良さを再認識する機会が増え、地域の活動機運が盛り上がるのが期待できます。

4. 企業進出に関する期待

リニア開業後は、東京に約25分で、名古屋に約40分で移動できることなど、また首都圏より安価な地価や家賃といった条件、「日本の真ん中」ともいえる地理的条件などにより、新たな企業や事務所、事業所等の進出が期待できます。

いざというときにはすぐに、大都市圏に向かい打合せができる交通環境、自然に恵まれた生活環境、都会よりも利用者密度が小さいため恵まれた通信環境などを活かし、先端を行くIT産業や研究機関などの進出も期待できます。

それと同時に、地元の企業も行動が飛躍的に広がることから、企業活動の活性化が期待できます。

5. 商業に関する期待

定住人口や交流人口が増加することにより、既存商業やサービス業の活性化が期待できます。

特に日常生活に必要な「衣・食・住」の関連分野のニーズの高まりが期待できるとともに、観光客や来訪者が街中を回遊するとさらに消費等により活性化が期待できます。

6. 地域資源に関する期待

リニアで注目度が向上し、地域資源や中央市ブランドを他地域に売り込む機会が拡大することで、中央市ブランドの強化など産業の振興や地域の活性化が期待できます。

7. 農業に関する期待

本市は、気候、土壌、日照など農業生産に適しており、美しい田園風景を上手に活用する中での農業体験・田舎体験を通して新たな交流が期待できます。

多くの優良農地が存在する中で、トマトやトウモロコシ、ナス、キュウリなど様々な農産物が栽培されています。

それらの農産物を使用した「農カフェ」や「農レストラン」、「農産加工品」などを展開することで農産物等の価値を上げ、ブランド力を強化することや地産地消による農業振興に期待ができます。

3-4 リニア中央新幹線開業により変わる暮らし

1. 中央市から全国へ

リニア開業後は、東京までの所要時間が約90分から約65分短縮し、約25分で結ばれます。

そのため、横浜市や船橋市、さいたま市などと同じような移動時間の条件となり、東京を経由して広範囲にわたり移動が可能となります。

2. 中央市から世界へ

現状、成田国際空港まで約190分、中部国際空港まで約240分、羽田空港まで約140分要していた国際空港へのアクセスは、乗り継ぎ時間を含めても成田国際空港までは約105分で、中部国際空港までは約85分で、羽田空港までは約60分で結ばれ、そこから世界各国に出発できます。

3. いつでも中央市へ

リニアを利用することにより、大幅な移動時間の短縮つながることから広範囲にわたり移動が可能となりいつでも中央市へと来ることが可能となります。

また、本市を出て、首都圏や中京圏の大学で暮らす子どもや会社で働く人にとって、いつでも帰ることのできる場所になります。

4. ビジネスの可能性が広がる

本市の立地企業が、ビジネスを展開している場合、日本全国の顧客を訪問することが容易になります。

今まで一泊していたところも日帰りが可能となると考えられ、ビジネスのスピードを早めることができると同時に、地価や人件費が大都市よりも比較的安価な中央市という立地条件と相まって、ビジネスの可能性を高めることとなります。

また、海外との取引についても同様に可能性が高まることが考えられます。

5. ビジネスの可能性が地域を活性化する

ビジネスの可能性が高まり、市内の企業等で働く人が増えることは、中央市を訪れたり、住む人が増えたりすることになります。

そのため、これまで本市に見られなかった事業者や専門家が居住、あるいは就労することが期待され、交流の場を提供することで、新たな産業が芽生える可能性が高まります。

6. 通勤圏内の可能性

多少費用や時間がかかっても田舎での暮らしを選択する人は、今後増えることが考えられます。

また、東京はもとより名古屋などの中京圏で働く人にとっても、通勤圏の選択肢の一つとなることが考えられます。